

# イライジャ - ナンバー・テン

Jeff Pippenger

2023-10-13

## 千八百五十六

ミラー派運動は、イザヤ書第7章において、紀元前742年に始まる六十五年の預言として表されていた。イザヤの歴史の中で起こったその六十五年は、1798年から1863年までの六十五年を表している。アルファとオメガは常に、初めによって終わりを示す。その六十五年の預言は、イスラエルの北王国と南王国に対する七つの時の呪いを指し示している。北王国に対する最初の七つの時は、イザヤがアハズ王にその預言を示してから十九年後の紀元前723年に始まった。南王国に対する最後の七つの時は、その六十五年の終わりである紀元前677年に始まった。

エフライムに対する七倍の第一の呪いは1798年に終わり、その年はダニエル書8章と9章にあるウライ川の幻の封印が解かれた終わりの時であった。それは、第一天使のメッセージの到来とミラー派運動の預言的な始まりの双方を告げるしるしとなった。ユダに対する七倍の最後の呪いは1844年に終わり、これは第三天使のメッセージの到来であった。その19年後の1863年には、予言の冒頭で示された65年が、ミラー派運動の終わりとしてラオデキヤのセブンスデー・アドベンチスト教会の始まりを画した。1863年の7年前、すなわち1856年に、ジェームズ・ホワイトは、ミラー派運動がもはやフィラデルフィアの教会ではなく、ラオデキヤの教会となってしまったことを指摘し始めた。彼の孫は、エレン・ホワイトの伝記を執筆するにあたり、1856年の歴史とラオデキヤのメッセージについて記している。

## ラオディキアのメッセージ

安息日を守るアドベンチストたちは、黙示録2章と3章にある七つの教会へのメッセージは、世々にわたるキリスト教会の歩みを描いているものだという立場を取っていた。彼らは、ラオディキアの教会へのメッセージは、彼らが今では「名目上のアドベンチスト」と呼ぶ、すなわち第七日安息日を受け入れていない人々に適用される、という結論に達していた。10月9日付のレビュー誌の短い社説で、ジェームズ・ホワイトは、次のように述べて、いくつかの示唆に富む問いを投げかけた：

「見張りよ、夜はどうか？」という問いかけが、あらためて浮上し始めている。現時点では、関係する主題に注意を喚起するための問いを、いくつか示す余地しかない。十分な答えは、まもなく示されるものと信じる。-Review and Herald, 1856年10月9日

彼がした十一の質問のうち、ラオディキアの人々に焦点を当てたのは六番目だ。

6. ラオデキヤ人の状態（生ぬるく、冷たくも熱くもないこと）は、第三天使のメッセージを公言する者たちの全体の状態をよく表してはいないか。-同上

最後の問いが事柄を明らかにする：

11. もし私たちが民としてこのような状態にあるのなら、真の証人の『勸告』に耳を傾けない限り、神の恵みを望む正当な根拠が私たちにあるだろうか。——「わたしはあなたに勧める。あなたが富むように、火で精錬された金をわたしから買いなさい。また、あなたが着るために白い衣を買い、あなたの裸の恥が現れないようにしなさい。さらに、見えるように、目薬であなたの目に塗りなさい。わたしは愛する者を皆、叱り、懲らしめる。だから熱心になり、悔い改めよ。見よ、わたしは戸の外に立って叩いている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入り、彼とともに食事をし、彼もまたわたしとともに食事をする。勝利を得る者には、わたしとともにわたしの御座に着くことを許す。わたしも勝利を得て、父とともにその御座に着いたように。」ヨハネの黙示録 3:18-21。-同上。

その事柄の真実がジェームズ・ホワイトにもようやくわかりはじめていたことは明らかである。『レビュー』の次号には、その表題のもとに、七つの教会を七欄にわたって取り上げた記事が掲載された。彼は冒頭の言葉で次のように述べた。

私たちは、これら七つの教会は、七つの時代にわたるキリスト教会の七つの状態を表し、キリスト教時代全体を網羅するものとして理解されるべきだとする、幾人かの現代の注解者の見解に同意しなければならない。-同前、1856年10月16日。

彼はそこでその預言を取り上げ、各教会を個別に扱った。第七、すなわちラオデキアの教会に至って、彼はこう宣言した：

この教会についてのこの悲しい描写が、私たちという民にとってどれほど心を低くさせるものであることか。しかも、この恐るべき描写は、私たちの現状を最も完全に写し取った姿ではないだろうか。そうである。そして、ラオデキアの教会に対するこの鋭い証言の力を逃れようとしても無益である。主が私たちにそれを受け入れ、それによって益を得させてくださるように。-同上

彼はラオデキアの教会について二本のコラムを費やしたのち、結びの言葉で強く訴えかけた：

愛する兄弟たちよ、私たちは世と肉と悪魔に打ち勝たなければ、神の御国にあずかることはできません。……直ちにこの務めに取りかかり、信仰によって、悔い改めるラオデキア人に与えられている恵みの約束を自分のものとして受け取りなさい。主の御名によって立ち上がり、その祝福された御名の栄光のために、あなたがたの光を輝かせなさい。-同上

現場からの反応は衝撃的だった。10月20日、オハイオのG・W・ホルトはこう書いた：

はい、私は、神の戒めとイエスの信仰をもつ第三のメッセージにある私たちこそ、この言葉が向けられている教会であると信じています。そして、私たちは、精錬された金と白い衣、そして見えるようになるための目薬を求めることに関して、いくら早くても早すぎるということはありません。-同上、1856年11月6日。

北東部からこの件について新たな声が上がった。マサチューセッツ州プリンストンのスティーブン・N・ハスケルである。彼は日曜を守るアドベンチストとして20歳で説教を始めたが、三年後の今では第三天使のメッセージの立場に立っていた。徹底した聖書研究者である彼は、七つの教会の問題を取り上げるホワイトの簡潔な最初の社説を

目にして、Review 誌のために長文の論考を書くことにした：

“言及された件の主題は、ここ数か月のあいだ、私にとって深い関心事であった。……私は、私が妥当と考える多くの理由から、ラオデキア人へのメッセージは私たち、すなわち第三の天使のメッセージを信じる者に当てはまるのだと、しばらく前から信じるように導かれてきた。そのうち二つを挙げよう。-同上”

彼はこれを行い、結論に二欄を割いた。締めくくりに、彼はこう宣言した。

第三天使のメッセージの理論は、聖徒たちの義である婚礼の礼服なしには、決して、断じて、私たちを救うことはない。私たちは、主を恐れつつ、聖潔を全うしなければならない。-同上。

ジェームズ・ホワイトがラオデキアの教会へのメッセージに関する社説を続けるなか、『レビュー』誌で安息日を守るアドベンチストたちがいま読んでいた諸概念は衝撃的であったが、思慮深く祈りをもって吟味すると、それらは自分たちに適用できるものだと見なされるようになった。編集部あての手紙は広い一致を示し、リバイバルが進行中であることを示唆していた。1857年4月に刊行された『テストimoniー第3号』の最初の記事「熱心であれ、悔い改めよ」は、この心を揺さぶるメッセージが単なる興奮の産物ではないことを裏づけた。その冒頭はこうである。「主は、現在の生ぬるい状態にある教会に関して、私に幻のうちにくつかのものを示された。私はそれをあなたがたに語ろう。」-IT, p. 141. ここでエレン・ホワイトは、地上的な繁栄と財産を通して教会を攻撃するサタンの働きについて、自分に示されたことを述べた。アーサー・ホワイト『エレン・G・ホワイト-初期の歳月』第1巻、342-344ページ。

ミラー派運動は、予言的にはフィラデルフィアの教会として始まり、1856年にラオデキアの教会となった。七年後にその運動は終わり、セブンスデー・アドベンチスト教会がラオデキアの教会として始まり、主の口から吐き出されるまでそのままである。十四万四千人の運動は、ミラー派運動がサルディスの教会の群れから出てきたのと同じように、ラオデキアの教会の群れから出てきた。十四万四千人の運動は、最初の運動がフィラデルフィアからラオデキアへと変わり、最後の運動がラオデキアからフィラデルフィアへと変わるという点で、ミラー派運動と並行している。ミラー派の歴史におけるフィラデルフィアからラオデキアへの移行点は1856年と明確に示されているので、神は決して変わらないゆえに、最後の運動においても移行点が示されなければならない。その移行点は、通りで殺される二人の預言者によって、黙示録11章において特定されている。

そして、彼らはその証しを終えたとき、底知れぬ淵から上ってくる獣が彼らに戦いを挑み、打ち勝って、彼らを殺す。彼らの死体は、大いなる都の広場にさらされる。その都は霊的にはソドムともエジプトとも呼ばれており、そこはまた、私たちの主が十字架につけられた所でもある。黙示録 11:7, 8.

最後の運動は死に、やがて立ち上がり、その後、旗印として復活するだろう。そうすることで、それは共和制の角と同調することになる。共和制の角は獣の像を造る。そして、それが像を造るその獣については『ヨハネの黙示録』第十七章で語られており、その獣は致命的な傷を負った第五の頭で、のちに第八の頭として復活すると特定されている。それは、七つのうちの一つであった第八として復活する。

かつては存在し、今は存在しないその獣は、第八のものであり、七つのうちの一つであり、滅びに至る。ヨハネの黙示録 17:11

共和主義の角はその獣の像を造るだろう。そのために殺され、その後復活するだろう。復活すると、それは先の七つの頭に属する第八の頭となるだろう。プロテスタントの角は、共和主義の角と同じ地の獣に乗っており、同じ預言的ダイナミクスを備えていなければならない。ミラー派運動におけるフィラデルフィアからラオデキアへの移行は、最終の運動におけるラオデキアからフィラデルフィアへの移行を予型している。

最後の運動が2020年7月18日に致命的な傷を受けたとき、それはラオデキアとして死んだ。黙示録11章に表されているようにそれがフィラデルフィアへと移行したとき、それは、すなわち七つに属する八番目の教会を表すことになる。2020年のその死は、共和党の角によって並行して表されていた。というのも、1989年の終わりの時以来、大統領は六人いたからである。六番目の大統領は致命的な傷を受け、それは2024年に癒される。その頭はその後、1989年の終わりの時以来のアメリカ合衆国の八番目の頭となり、七つに属するものとなる。両方の角は、六番目であって八番目となるものだった。この真理は、猶予期間の終わり直前に封印が解かれるイエス・キリストの黙示のメッセージの大部分を成している。

このため、私たちの現在の歴史を予表しているミラー派の歴史について明確にしておくことが重要である。1856年、ホワイ夫人は、ジェームズ・ホワイトが当時の運動をラオデキアに当てはめたことを確認した。したがって、これは人間の論理から導き出された適用ではない。セブンスデー・アドベンチスト教会が共和主義の角と法的に結びつけられる七年前に、それは靈感によってラオデキアの教会であると示された。これは、セブンスデー・アドベンチスト教会の歴史において、その教会が裸で、貧しく、盲目で、惨めで、哀れである以外の何ものでもなかった日が一日たりとも存在しなかったことを意味する。この預言的現実、エゼキエル書8章における四つの段階的に深まる忌むべき事柄をアドベンチズムの四世代として認識するための文脈と正当性を与える。

ミラー派の歴史をイザヤ書7章の「六十五年」という構造から捉えると、「七つの時」の預言こそが、ミラー派運動の全歴史を覆う予言的な包括的枠組みであることが分かる。1856年には、ラオデキアの教会へのメッセージが、ミラー派のアドベンチズムにとっての現在の真理となった。ラオデキアのメッセージを告げる者はジェームズ・ホワイトでもエレン・ホワイトでもなく、忠実また真実な証人であった。

ラオデキアにある教会の御使いに書き送れ。「アーメン、忠実で真実な証人、神の創造の初めである方がこう言われる。わたしはあなたの行いを知っている。あなたは冷たくも熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。だから、あなたが生ぬるく、冷たくも熱くもないので、わたしはあなたをわたしの口から吐き出す。あなたは『私は富んでいる。財産も増し、何一つ必要がない』と言っているが、自分がみじめで、哀れで、貧しく、盲目で、裸であることを知らない。わたしはあなたに忠告する。あなたが富む者となるために、火で精錬された金をわたしから買いなさい。あなたが身にまとうための白い衣を買い、あなたの裸の恥が現れないようにしなさい。また、目薬を買って目に塗り、見えるようになりなさい。わたしは、愛する者を責め、懲らしめる。だから、熱心になって、悔い改めなさい。見よ、わたしは戸の外に立って叩いて

いる。だれでもわたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入り、彼と共に食事をし、彼もわたしと共に食事をする。勝利を得る者には、わたしと共にわたしの御座に座ることを許そう。ちょうど、わたし自身も勝利を得て、父と共にその御座に座っているように。耳のある者は、御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」ヨハネの黙示録 3:14-22.

真の証人は、だれであれ彼の声を「聞く」なら、彼は中に入り、「彼と共に食事をする」と示している。ラオデキアが戸を開けるなら、キリストは中に入り、彼らと食事を共にする。キリストが入ることを許すなら、彼はメッセージを携えて来る。というのも、食べるという象徴はメッセージの受け入れを表しているからである。そのメッセージを単にラオデキア人へのメッセージと一般化することもできるが、それでは、彼が差し出しているメッセージが何を意味するのかの捉え方としては浅い。1856年に、ハイラム・エドソンは、神の天使たちがウィリアム・ミラーを導いて認識し公に宣言させた最初の「時の預言」の理解を広げる予言的情報を含む、八つの論考の連作を発表した。その八つの論考の中で、エドソンはイザヤ書7章の六十五年を正しく特定している。

ミラーの働きが始まりは「七つの時」の発見であり、彼の奉仕にちなんで名づけられたその運動が終わる七年前に、まさにその預言についてのさらに深い啓示がミラー派アドベンティズムに差し出された。それは、彼らが靈感によってラオデキヤ人と認められたその同じ年に与えられた。預言上、二千五百二十日後の1863年に、ミラーの最初の予言的年代の発見は拒否された。アドベント運動へのラオデキヤのメッセージは1856年に到来し、主は八本の記事をもって八度戸を叩き、みずからお入りになれるかどうかを試みられた。運動の終わりに、まことの証人は、運動の初めからの最初の時のメッセージを食することによって、ご自分の民とともに夕餐を共にすることを望まれた。だが民は食べることを拒み、そして七年後、すなわち予言的日数で二千五百二十日後に、ダビデの鍵によって開かれ、ウィリアム・ミラーの手にゆだねられていたその戸を、彼らは閉ざした。彼らは、彼らに偽りを食べさせた古いサマリア人の預言者のもとへ戻り、ろばと獅子の間で死ぬという自らの運命を確定させた。

1856年、プロテスタントの角は幻の谷の危機のただ中であつた。なぜなら、幻がないところでは民は滅びるからである。1856年、共和党の角もまた危機にあつた。

1856年も、「流血のカンザス」として知られるカンザス＝ミズーリ境界戦争という暴力的な抗争が続いた。争いは、カンザスが自由州として合衆国に加わるのか、奴隷州として加わるのかをめぐるものだった。この対立には、奴隷制支持派と奴隷制反対派の入植者たち間の暴力的な衝突が含まれていた。

1856年5月22日、アメリカ合衆国上院議場でも暴力事件が起きた。サウスカロライナ州の奴隷制度擁護派の下院議員プレストン・ブルックスが、マサチューセッツ州選出の上院議員チャールズ・サムナーを杖で残忍に殴打したのである。サムナーは「カンザスに対する罪」と題する奴隷制度反対の演説を行っており、それがブルックスを深く怒らせた。この杖による暴行事件は、奴隷制度をめぐる北部と南部の緊張の高まりを浮き彫りにした。

1856年、共和党は、1854年に可決されたカンザス＝ネブラスカ法が引き起こした政治的混乱への対応として結成された。同法は、新領土への奴隷制の拡大に対する反対の高まり

を招いた。党の第1回全国大会はフィラデルフィアで開催され、1856年の大統領選挙ではジョン・C・フリーモントが初の大統領候補に選出された。

カンザス＝ネブラスカ法は、カンザスおよびネブラスカの準州を設置し、これらの地域の境界内で奴隷制を認めるかどうかを、そこに住む入植者が決定できるようにした。この考え方は「住民主権」として知られ、ルイジアナ準州において北緯36度30分以北での奴隷制を禁じていた1820年のミズーリ妥協を事実上撤廃した。この法律は、準州における奴隷制の問題に深い影響を与えた。カンザスなど、それまで自由土とみなされていた地域にも奴隷制が拡大しうる可能性を開いたため、南北間の緊張が再燃した。カンザス＝ネブラスカ法の成立により、住民主権に基づく投票結果に影響を与えようと、奴隷制擁護派と反対派の入植者がこぞってカンザス準州へ殺到した。地域の支配をめぐるこの競争は暴力的な衝突を引き起こし、1856年には「流血のカンザス」として知られる無法状態の時期を招いた。

1856年の大統領選挙は、重要な政治的出来事だった。民主党のジェームズ・ブキャナン、共和党のジョン・C・フリーモント、そしてアメリカ党の元大統領ミラード・フィルモアによる三つ巴の争いとなった。ジェームズ・ブキャナンが当選し、アメリカ合衆国第15代大統領となった。

ジェームズ・ブキャナンの大統領任期は、北部と南部の間で高まる緊張と分断に効果的に対処できなかったこと、そしてその結果として彼の退任直後に南北戦争が勃発するに至ったことで主に知られている。こうした指導力と危機対応の重大な失敗により、彼の大統領任期はアメリカ史上、最も不成功なものの一つとしばしば見なされている。

1857年の悪名高いドレッド・スコット判決は、奴隷は、隷属してしようと自由であろうと、市民ではなく、連邦裁判所で訴えることができないと宣言した。また、合衆国の準州において議会は奴隷制を禁止できないとも宣言した。民主党のブキャナンは、奴隷制擁護のドレッド・スコット判決を公に支持した。

民主党のブキャナンが奴隷制擁護の立場をとったことは、緊張を南北戦争へとエスカレートさせただけでなく、彼には国の経済を適切に運営する能力もなく、1857年恐慌を招いた。これは大恐慌以前のアメリカ史における最大級の景気後退の一つであった。1857年恐慌は数年にわたる深刻な不況をもたらし、企業や銀行が閉鎖・倒産し、失業が増大し、株式市場は下落した。

ブキャナンの大統領在任中、南部諸州は合衆国からの離脱に動き始め、1860年に共和党のエイブラム・リンカーンが当選すると、それに呼応して相次いで離脱した。ブキャナンは連邦離脱危機に対して消極的な姿勢をとり、連邦政府には離脱を武力で阻止する権限がないと主張した。こうした決断的行動の欠如は、離脱運動に勢いを与えた。強い指導力を欠き、連邦離脱危機に対処するための断固たる行動を取ることをためらったことは、南部に、軍事的な抵抗に直面することなく合衆国を離脱できるという認識を抱かせる一因となった。

1860年、共和党初の大統領となるエイブラム・リンカーンが当選した。1863年1月1日、リンカーン大統領は最終の奴隷解放宣言に署名して公布し、南部連合の支配下にある地

域のすべての奴隷とされた人々を解放することを宣言した。この大統領令は、合衆国の統一を維持するだけでなく奴隷制を終わらせるための闘いへと性格を転換させ、南北戦争に大きな影響を与えた。奴隷解放宣言は、奴隷とされたすべての人々を直ちに解放したわけではなかった。適用対象は南部連合の支配下にある地域に限定され、そこでは合衆国の権限は限られていた。合衆国軍が進軍して南部連合の領域を掌握するにつれて、この宣言は執行され、その地域の奴隷とされた人々は解放された。奴隷解放宣言は、最終的に合衆国における奴隷制を廃止するための重要な一歩であり、1865年12月6日に可決・批准された合衆国憲法修正第13条の成立への道を開いた。

共和党の角は1850年代以降、奴隷制度の問題をめぐる危機のただ中であつた。国内には、二つの主要な政治思想の類型に代表される二大の対立があつた。1856年、反奴隷制派と奴隷制擁護派の集団が、奴隷制に関する自らの見解を貫くためにカンザス準州へ移り住み始め、分離の過程が始まつた。まさにその時、フィラデルフィアはラオデキアから切り離されつつあつた。民主党は奴隷制擁護であり、共和党は反奴隷制であつた。

1856年、流血のカンザスは、迫り来る戦争の縮図だつた。その年、奴隷制擁護の民主党員が共和党のホーンの長に選出され、彼の無力な指導力は、つい最近に至るまで、機能不全の大統領職の象徴となつた。彼は、ブキャナン政権が残した混乱の後始末を余儀なくされた最初の共和党大統領に先立つ人物だつた。

1863年には、共和党の角は、黙示録十三章の地の獣の歴史において最も重要な大統領令を発した。その大統領令は奴隷制度に対処するものだつた。宣言の一節は次のように述べている。「西暦1863年1月1日をもって、合衆国に対して反乱状態にあるいかなる州、または州の指定された地域内で奴隷として拘束されているすべての者は、その時から、以後、永遠に自由とする。合衆国の行政府は、その軍事および海軍の権限を含め、かかる者の自由を承認し、維持し、彼らが実際の自由を獲得するために行ういかなる努力においても、そうした人々、またはそのうちのいずれかを抑圧するいかなる行為も行わない。」その時点では奴隷制度の問題の解決は歴史的に未完であつたが、リンカーンが「いかなる州において…奴隷として拘束されているすべての者は、その時から、以後、永遠に自由とする」と記したとき、憲法の本質が認められている。

リンカーンは、「すべての人間は平等に創造された」とうたう、憲法に表された根本原理へと立ち返つていた。リンカーンが根本的真理に立ち返つていたのと同時に、プロテスタントの角は、その基礎的な預言、すなわち奴隷制の預言を拒んでいた。したがって、奴隷制に関して共和党の角が歴史上最も重要な「行政命令」を発していたまさにその時、プロテスタントの角も、モーセの誓いと呪いによって表される奴隷制の預言に関し、その預言的歴史において最も重要な行政命令を下した。共和党の角は基礎への回帰を選び、プロテスタントの角は自らの基礎を拒み、決して戻ってはならないと教えられていたところへ戻ることを選んだ。

1863年、共和主義の角は、ヤロブアムとレハブアムの時代に古代イスラエルの王国が分裂したのと同様に、二つの陣営に分裂していた。1863年、プロテスタントの角は、ベテルとダンにおけるヤロブアムの二つの祭壇に象徴されるように、法的に共和主義の角に結び付けられた。その二つの角は互いに並行して歴史を歩み、とりわけ1863年の歴史は、終

末の時代の歴史を表している。

ミラー派の歴史は、いくつかの預言的な但し書きを伴って、十四万四千人の歴史において繰り返される。その但し書きの一つは、ミラー派の歴史における対象者が、まず運動の外にいる人々であり、その後に運動そのものであったという点である。十四万四千人の運動においては、黙示録18章の二つの声が二つの対象を示しているが、その対象はミラー派の歴史とは逆になっている。第一の対象は神の民であり、第二の声は、なおバビロンにいる神のほかの群れである。

もう一つの預言的な注意点は、両者の歴史はいずれも一つの教会から別の教会へと移っていくとはいえ、ミラー派はフィラデルフィアからラオデキヤへ移り、第三の天使の力強い運動はラオデキヤからフィラデルフィアへと移るということである。これは、ミラー派が第六の教会から第七の教会へ移り、そして十四万四千は第七の教会から、七つに属する第八の教会へと進むことを示している。

共和党の角は、1863年前後の歴史において、奴隷制支持の国家から奴隷制反対の国家へと向かう運動を始めた。その歴史の危機は、今日この「終わりの日々」においても同じ敵対者である二つの政党を確立した。あの歴史における最初の共和党大統領が、戦争終結からわずか数日後に暗殺されたのと同様に、最後の共和党大統領は、世界が歓喜する中、象徴的に暗殺され、死んだ者として路上に放置された。彼が暗殺されたのは、南北戦争が終わって数日後ではなく、最後の内戦が始まる直前であった。

最初の共和党大統領の前任者はアメリカ史上最も無能な大統領だったが、最後の共和党大統領の前任者も同様になるだろう。最初の共和党大統領に先立つ民主党大統領の無能さは、やがて南北戦争へと発展する危機を引き起こしたが、同じ無能さが今、起こっている。最後の共和党大統領に先立つ民主党大統領は、当時としてアメリカ史上最大の経済恐慌を招くような形で経済を運営した。二つの角は日曜法に至るまで並行して進む。1863年に両方の角の第一世代が始まり、両方の角において第四にして最後の世代は東を向き、太陽にひれ伏すことになる。

エリヤのメッセージには、警告のことばを確証する神の裁きが常に伴う。世界の人々は今、洪水の前の人々のように生きている。彼らは食べたり飲んだりし、起こりうるあらゆる問題をグローバリストのテクノロジー巨大企業が解決してくれると期待している。神のことばは、世界が今、甚大な危機の瀬戸際にあることを示している。

「夜はどうか」。私はこれらのメッセージの意義を見分けているだろうか。大いなる救済の体系の終末の働きにおいて、それらが占める位置を理解しているか。私は「確かな預言の言葉」に十分通じていて、身の回りで起こっている出来事の中に、来臨の王がまさに戸口にまで来ておられるという確かな証拠を見いだすことができるだろうか。神が与えてくださった光を踏まえて、自分に課せられている責任を自覚しているか。滅びゆく人々を救うために、神の管家として私に託されたあらゆる賜物を、適切に方向づけられた努力の中で用いているか。それとも、私はなまぬるく無関心で、悪しき世と一部まじりあい、神が与えてくださった資力や能力を多くは自己満足のために用い、御業の前進よりも自分の安楽と快適さを気にかけているのだろうか。私の歩みは、世に広がりつつある「セブンスデー・アドベンチストはラッパに不確かな音を出し

、世の人々の道を歩んでいる」という確信を、かえって強めてはいないだろうか。

私たちは、世の不義を罰するために近づいて来られる神の御足音を聞いている。時の終わりが目前に迫っている。世界の住民は、焼かれるために束ねられつつある。あなたは毒麦とともに束ねられてしまうのか。あなたは、毎年、何千、何千、そして十万もの魂が滅び、罪のうちに死んでいることを理解しているだろうか。神の災いと裁きはすでにその働きをしており、彼らの歩む道に真理の光が照らされていないために、魂は滅びに向かっている。総会日刊公報 1897年4月1日。

夜、わが魂をもってあなたを慕い求めました。まことに、わが内にある霊をもって、朝はやくあなたを尋ね求めます。あなたの裁きが地に行われるとき、世に住む者は義を学びます。イザヤ書 26:9